

(熊本県立小川工業高等学校) 令和7年度(2025年度)学校評価表

<b>1 学校教育目標</b>
(1) 校訓「誠実・剛健・礼節」を基盤に置き、本校のすべての教育活動を通して、知・徳・体の調和の取れた生徒を育成する。
(2) 「ものづくりを通じた人づくりの教育」を実践しながら、社会の変化に的確に対応し、自立(自律)して将来を切り拓く主体性のある生徒を育成する。
(3) 各科の特性を生かした取組を行い、家庭・地域社会から信頼される学校をつくる。

<b>2 本年度の重点目標</b>
(1) 専門高校として、ものづくりを通じた人づくりの教育、安心・安全な学校づくりを推進する。
(2) 確かな学力の育成と進路実現に向けた取組を充実する。
(3) 心身ともに健康で、互いを思いやり自他の生命を尊重できる豊かな心をもった生徒を育成する。
(4) 地域社会と連携し、各科の特性を生かした特色ある学校づくりを推進する。

<b>3 自己評価総括表</b>						
<b>評価項目</b>		<b>評価の観点</b>	<b>具体的目標</b>	<b>具体的方策</b>	<b>評価</b>	<b>成果と課題</b>
<b>大項目</b>	<b>小項目</b>					
学校経営	(R6.12 保護者によるアンケート結果 83.0%)	教育目標が生徒・保護者と共有されている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>80%以上の生徒や保護者が学校の教育目標を知っていると答える。(R6.12 保護者によるアンケート結果 83.0%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校HP、学校Instagram、集会、学級通信等を通し、生徒・保護者へ教育活動の周知と理解促進を図る。</li> </ul>	A	83.2%の肯定的回答を得た。保護者(94.7%)については、PTA総会やHPを通じた情報発信が機能していると思料。一方で、生徒(78.6%)については高学年の方が高い傾向が見られた
		社会の変化に的確に対応し、自立(自律)して将来を切り拓く主体性 <sup>※1</sup> のある生徒を育成している。 <sup>※1</sup> : 自らの意思や判断に基づき、課題を見つけ、解決策を考え、行動に移す姿勢を批判的に捉え、より良いものや状態を創造しようとする能動的な態度。	<ul style="list-style-type: none"> <li>2割の生徒が「自分のことを、自分の行動に責任を持ち、身近な社会課題に関心のある大人だと思う」と答える。</li> <li>2割の保護者が「自分の子供を、自分の行動に責任を持ち、身近な社会課題に関心のある大人だと思う」と答える。</li> <li>2割の教職員が「生徒たちのことを、自分の行動に責任を持ち、身近な社会課題に関心のある大人だと思う」と答える。</li> <li>4割の生徒が「自分の行動で、国や社会(学校)を少しでも変えていけると思う」と答える。</li> <li>4割の保護者が「自分の子供は、国や社会(学校)を少しずつでも変えていくことのできる主体性と対話的な社会性を身に着けている」と答える。</li> <li>4割の教職員が「生徒たちは、国や社会(学校)を少しずつでも変えていける主体性と対話的な社会性を身に着けている」と答える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員が生徒の主体性や社会性(対立<sup>※2</sup>)を対話によって解決しながらWell-Beingな社会を実現していくスキル)を育むために必要な知識や技術を身に着けるための研修を実施し、これを出来ることから実践する。  <sup>※2</sup>: 暴力的、感情的な対立ではなく、違いを認め合う中にある意見や利害の対立を指すものとする。</li> </ul> (R7の具体的目標の数値設定について) 日本財団が実施している「18歳意識調査」によると、2022年調査では、「自分は大人だと思う」と回答した18歳は全体の約27%。 2023年調査では、「大人になったと思う」と回答した18歳は全体の約25%。 「自分の行動に責任を持つ」「身近な社会課題に関心がある」という大人の定義を修飾する言葉が入っていることから、単純な「大人だと思う」の回答割合よりも、達成ハードルは高くなると考えられることからやや低く設定している。また、「社会を良くするために自分にできることはあると思う」と回答した18歳は、約58%。 本校生は、16歳～18歳であることを踏まえ、低めに設定する。	A	本年度新設した「主体性・社会性」の項目は、全対象で目標を達成した。「責任感・社会課題への関心」の肯定率は生徒81.6%、保護者79.7%、職員54.8%と、目標の2割を大幅に超過。特に生徒の「特にあてはまる」は23.4%に達し、外部調査の数値に迫る高い意識が示された。「社会を変える力(主体性)」も生徒51.6%、保護者60.7%、職員52.4%と、目標の4割をクリアした。  成果の一方で、生徒の主体性肯定率は全国平均(約58%)を下回り、職員評価も約5割に留まる。自己効力感の醸成が今後の課題。  次年度の数値目標を再設定するとともに、具体的方策である「対話による課題解決」のスキルを今以上に教育活動に浸透させ、生徒が「自らの行動で状況を変えた」と実感できる成功体験を意図的に創出することが期待される

特色・魅力ある学校づくり	地域産業界との連携に向けた取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>8割の教職員が、「熊本県版マイスター・ハイスクール事業の理念について理解している」と回答する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>熊本県版マイスター・ハイスクールの理念について、理解を深める研修会を実施する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業界等の外部視点を取り入れた研修会が奏功し、88.1%の理解度が得られた。意識改革の基盤が整った。</li> </ul>
	ものづくり教育の魅力発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域と連携したものづくり活動に取り組む。(R5.12 職員によるアンケート結果81.1%)。80%以上を維持する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>商業施設などの関係機関と連携し、ものづくり教室や展示会などの地域貢献活動を通し、「ものづくり教育」の魅力を発信する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標の80%以上を維持し、生徒・保護者からも高く支持されている。今後も活動の質的向上と生徒主体による取組を継続。</li> </ul>
	部活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が部活動を活発と感じる(R5.12 生徒によるアンケート結果84.6%)。83%以上を維持する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動の活性化と学校HP等とおし、活動状況を随時報告する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校公式 Instagram の更新頻度が極端に減少したことで、保護者や生徒から活動状況の発信を求める声が上がった。</li> </ul>
業務改善及び働き方改革	GoogleWorkspaceの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>9割の教職員が、「GoogleWorkspaceの主な機能について分かる」と回答する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生成AIの活用方法を含む教職員研修を実施する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>約80.3%が分かる」と回答したものの9割には満たなかった。</li> </ul>
	職員の超過勤務の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間外勤務の平均時間を昨年度比で2%削減する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>月ごとの時間外勤務をグラフ化して示すことにより、職員個々の意識を高める。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>12月までのデータから、約3.2%の増加が見込まれる。グラフ化して示すことができなかった。</li> </ul>
	休暇等を取得しやすい環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>6割の教職員が、「次年度に向けた組織体制の改善や学習スタイルへの転換に向けた基盤が出来た」と回答する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任を含むすべての教職員が等しく休暇を取りやすい環境をつくるため、チーム担任制など組織体制の改善に関する検討を行う。</li> <li>いわゆる「教えない授業」スタイルへの転換を促すため、関連する研修等を実施する。(危険を伴う実技系の実習等は除く)</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>チーム担任制の検討や学習スタイルの転換を目標に掲げたことで、潜在的な意識の共有が進んだ。特に、平等な休暇取得を阻む要因について構造的課題が明確になった。</li> <li>「チーム担任制」等の具体的検討が年度内に十分進まず、教職員の意識変容を促す研修等の実施も停滞したが、引き続き取り組んでいく。</li> </ul>
学力向上	基礎学力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>1,2年生で年2回の基礎力診断テストの結果での向上した生徒が30%以上とする。</li> <li>生徒の基礎学力向上のために積極的に取り組む(生徒のアンケート結果が昨年88%を90%にする。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数学科での1年生の機械科、建築科、設備工業科、2年生の情報電子科の4クラスで2つに分けて習熟度別を実施及び個別に指導する。調査前学習会を実施する。</li> <li>基礎力診断テストで、自己分析を行い、学力向上に繋げる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>数学科で習熟度を実施。</li> <li>1,2年生で9月と1月に基礎力診断テストを実施。3教科平均の結果が向上した生徒は44%であった。</li> <li>生徒の基礎学力向上のために積極的に取り組んでいると答えたのは86%であった。</li> <li>基礎学力向上の結果を自己分析し、向上につながるような取組が課題である。</li> </ul>
	自学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>自主的に学習を振り返り、家庭学習の定着。(生徒のアンケート昨年79%を81%にする。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の指導や学習生徒自身振り返りなど生徒自身が主体的・対話的で深い学びとなる授業改善のために公開授業での教員相互の授業参観を充実させる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>宿題や課題など家庭学習ができていたと答えたのは73%であった。</li> <li>家庭学習が自分の学びにどう繋がったかなどの振り返りの質の向上や個々の状況に応じた学習支援の強化が今後の課題である。</li> </ul>

	授業力の向上	分かる授業、興味関心を持たせる授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的・対話的で深い学びの実現と授業改善の実践 (生徒アンケート昨年85%を87%にする。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公開授業・研究授業週間における教員相互の授業参観を充実させる。また、管内中学校及び保護者等に案内し、授業改善に努める。</li> <li>一人一台端末により、授業評価アンケートを実施し、スピード感をもって授業改善に活用する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>公開授業を6月と11月に実施。</li> <li>教え方が工夫されていて、授業がわかりやすいと答えた生徒は81%であった。</li> <li>公開授業参観後の意見交換やフィードバックを授業改善に結びつける仕組みなどにさらなる工夫が今後の課題である。</li> </ul>
キャリア教育(進路指導)	キャリア教育の充実	生徒の進路目標明確化につながるキャリア行事の計画・実施。	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育につながる各行事の内容改善・計画・実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターンシップ、工場や現場の見学、検定試験対策、各種ガイダンスなどを学年・各科・進路部で計画・実施する。</li> <li>各教室や各科で生徒との積極的なコミュニケーションを継続。</li> <li>進路情報の定期的な提供。</li> <li>講話、面談、進路希望調査の実施。</li> <li>進路LHRを系統的に計画・実施</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業生講話には県内企業だけでなく各科1社ずつ県外企業から参加の協力を得た。</li> <li>インターンシップの事業所数は77。科の特色と生徒の希望に沿った仕事内容に調整がさらに進んだ。</li> <li>合同企業説明会は、市主催の影響で企業数47社に増えた。参加企業の仕事内容や生徒数の関係があるので次年度は検討・調整が必要か。</li> <li>来校企業・求人数が増加。進路情報を学年に伝えているが、生徒にどうつなげていくか検討。</li> <li>学年の指導と報告にあわせた進路希望調査の時期設定が定まった。</li> <li>2年間で生徒の進路希望が定まっていくような進路LHRやガイダンスの計画が課題。</li> </ul>
	目標進路の達成	進路内定率100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>就職・進学進路決定100%</li> <li>公務員試験の1次・2次試験対策の強化。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>面接指導と試験対策を継続し、就職・進学内定率100%を実現</li> <li>熊本キャリアサポーター・各科・担任団と連携した進路指導</li> <li>進学模試・公務員模試の実施・企業との情報交換を継続し、各科・各学年団・家庭・生徒への情報共有・提供を継続。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>就職試験1回目不調者は例年より少なかった(5名+公務員から変更1名)。2回目受験先決定・内定まで達していない生徒も残る。</li> <li>進学希望が例年と比べて倍増。模試と説明会実施、各教科・各担任・係の丁寧な指導が56名全員合格につながった。受験スタイルが多様化しており、受験申込みまでの流れと書類確認作業を年度初めに、学年で確認してスタートしたい。</li> <li>公務員補講を1年間継続。2次受験が増えた。</li> <li>パソコン利用履歴書作成を始めとした諸対応が、教務・各科・学年間での早めの検討・調整によって円滑に進んだ。</li> </ul>

生徒指導	規範意識	法律や校則、社会的マナー等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題行動の未然防止及び全職員による生徒指導の実施</li> <li>情報モラルに関する指導の充実(家庭との連携)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導部通信等による重点指導事項の周知</li> <li>「語先後礼(5秒間)」の徹底</li> <li>事後指導を含めた「特別な指導」の充実</li> <li>情報モラル教育講演会の実施及び家庭との連携</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校全体としては、生徒は概ね規範意識を持って学校生活を送っていたが、学校外での問題行動により「特別な指導」となる生徒が増えた。</li> <li>情報モラルに関して、講演会やLHRでの指導、保護者会等での周知等を行った。</li> </ul>
	基本的生活習慣	基本的生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>遅刻者の削減</li> <li>社会人としても通用するレベルの清々しい挨拶、端正な服装の実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登校指導による挨拶及び整容指導</li> <li>頭髪服装指導に向けた事前指導の徹底</li> <li>各種集会時の指導徹底</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎朝の登校指導・遅刻指導や整容指導、担任等と連携した個別指導を行い、遅刻者削減や頭髪服装の規定遵守について一定の効果を上げることができた。</li> </ul>
	交通安全	交通事故や交通違反の減少	<ul style="list-style-type: none"> <li>登下校指導、交通安全講話、委員会活動等を通じた交通安全指導の充実</li> <li>自転車の2重ロック率100%達成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通安全講話の実施</li> <li>登下校指導の実施</li> <li>原付通学生への指導徹底</li> <li>交通委員会活動の充実</li> <li>交通安全LHRの実施</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>5月に宇城警察署より交通安全講話をしていただいた。</li> <li>通学時の重大な事故はなかった。</li> <li>交通委員会の取組により、自転車の2重ロックはほぼ100%であった。</li> </ul>
	自主性、社会性の育成	生徒の主体的取組による生徒会活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会行事の充実</li> <li>委員会活動の活性化</li> <li>ボランティア活動への積極的な参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会行事の計画的な企画立案や運営と生徒会役員の自主性の涵養</li> <li>毎月の各種委員会実施</li> <li>ボランティア活動の周知と奨励</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会総務を中心に、関係する委員会や部活動等と連携して、多くの生徒会行事を実施することができた。</li> <li>毎月の各種委員会の時間を中心に、委員会ごとに活発な活動ができた。</li> <li>ボランティア活動への積極的な生徒の参加があった。</li> </ul>
人権教育の推進	命を大切にすることを育む指導	学習機会の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権教育講演会を年1回、人権教育LHRを年2回実施</li> <li>人権教育LHRにおける系統的な個別の人権課題に関する学習の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係機関を活用しながら、人権教育講演会を実施する。</li> <li>人権教育実践委員会において、人権教育LHRの実施に向けた教材の作成を行う。</li> <li>各学年会において、人権教育LHRの事前学習会を実施する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>11月に人権教育講演会の実施を計画していたが、8月の豪雨災害によって体育館が使用できなくなったため、校内人権学習会として動画視聴による部落問題学習を行った。</li> </ul>
		命を大切にすることを育む指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>「人権教育コーナー」掲示板の積極的な活用</li> <li>「人権の花」運動の展開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「人権教育コーナー」掲示板に人権教育や人権啓発に関するポスターやチラシを掲示する。</li> <li>くまもと県民交流館パレア男女共同参画センターの「ロビー展共同開催」を活用する。</li> <li>宇土人権擁護委員協議会の協力により「人権の花」の花壇を設置する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>「人権教育コーナー」掲示板に人権教育や人権啓発に関するポスターやチラシを掲示した。加えて、宇城市「人権フェスタinうまし」における高校生ボランティア募集のチラシも掲示し、延べ8名の生徒の参加があった。</li> </ul>
	職員の高揚	個別の人権課題に関する研修の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>校外での研修会・研究大会への参加の促進</li> <li>研修会・研究大会に参加した職員の復講の機会の設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修会・研究大会への参加を各学年に割り当てる。</li> <li>研修会・研究大会の開催に関する情報を朝会連絡により職員</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修会・研究大会への参加を各学年に割り当てることで、より多くの職員が人権学習の機会を持てるように促した。</li> </ul>

いじめの防止等		人権教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校新聞「ななつぼし」における人権教育に関する記事の掲載</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修会・研究大会参加の復講の職員研修を12月に設定する。</li> <li>学校新聞「ななつぼし」に年間2回人権教育に関する記事を掲載する。</li> <li>「宇城地域差別事象に対する危機管理マニュアル」を職員及び保護者に周知する。</li> <li>熊本県人権子ども集会の動画の視聴を職員研修として位置付ける。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校新聞「ななつぼし」において、6月に「宇城地域差別事象に対する危機管理マニュアル」に関する記事、11月に部落問題学習に関する記事を掲載した。</li> </ul>		
			<ul style="list-style-type: none"> <li>熊本県人権子ども集会の動画の視聴の促進</li> </ul>					
	未然防止	啓発活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめを許さない環境を整え、いじめが発生しない雰囲気醸成</li> <li>HRや授業、部活動等、様々な場面で啓発</li> <li>言語環境を整える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめについて考えるLHRを実施</li> <li>いじめ防止の行動目標の設定</li> <li>学校生活の様々な場面におけるいじめ防止の取組の実践</li> <li>相手を思いやる言葉遣い等言語環境の整備</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>全学年で1学期にいじめについて考えるLHRを実施。生徒が考えたいじめ防止アピール文を集め、代表作品を校内数か所に掲示した。</li> <li>相手を思いやる言葉遣い等言語環境の整備の具体策は検討中である。</li> </ul>		
			早期発見	いじめ発見の取組の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間3回以上のアンケート調査実施</li> <li>担任による面談を随時実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学期に1回のアンケート調査の実施</li> <li>通報アプリの周知</li> <li>学級担任、教科担任、部活動顧問等による情報の共有</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>「心のアンケート」を2学期、「心のアンケート抜粋版」を1学期に実施した(3学期も実施予定)。</li> <li>「いじめられた」または「いじめを見聞きした」と答えた生徒に対して担任や部活動顧問が速やかに聞き取りを行って、情報を集約した。</li> <li>いじめ匿名連絡サイト「スクールサイン」を全校生徒に周知した。</li> </ul>
					発生した場合の対応	いじめの実態把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>迅速ないじめの実態把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>委員会を中心に、学科・学年・各部が連携</li> </ul>
	被害者への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>被害者の心のケア</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スクールカウンセラー等と連携した心のケア</li> </ul>	B			<ul style="list-style-type: none"> <li>必要に応じてSCと連携しサポート体制の提供を行った。</li> <li>面談を希望しない生徒への対応が課題である。</li> </ul>	
			加害者及び周囲の生徒への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>加害者及び周囲の生徒に対して必要な指導と心のケアを迅速に実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ問題対策委員会が中心となり、被害者の思いを理解させる</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>毅然とした指導を行うと同時に、カウンセリング等の支援も視野に入れ、生徒が自らの過ちに気づき変容するための継続的な関わりをもっている。</li> </ul>	

	再発防止	再発防止のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>取組についての検証を各学期に実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>委員会や関係部署間の情報交換と取組の検証</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ問題対策委員会で得られた情報は、全職員に周知し、取組に対する意見を職員から得られるようにしている。</li> <li>取組に対しての検証や具体的な改善策を実施している最中である。</li> </ul>
地域連携(コミュニティなど)	開かれた学校づくり	総合型コミュニティ・スクール	<ul style="list-style-type: none"> <li>年2回の学校運営協議会の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営協議会委員との連携を密にし、色々な立場から学校運営等の意見を聴く。</li> <li>地域と連携した学校運営。</li> <li>学校評価に対する学校運営協議会委員からの意見聴取。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>対面・オンライン共に案内頂く研修会はゆうnetで周知している。参加に結びつくケースは少ない</li> <li>校内職員研修の充実を図る必要がある。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>地域と連携した学校運営</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTA総会の出席率80%以上(委任状含む)</li> <li>学年別保護者会への参加率60%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>すぐー等を活用し、保護者へ学校情報を提供する。</li> <li>PTA役員と連携し保護者の参加を促す。</li> <li>PTA保護者集会の内容を精査する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>1,2学期に開催した生徒理解研修で全職員と情報を共有した。</li> </ul>
特別支援教育	特別支援教育への理解と支援の推進	教職員の専門性の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育に関する職員の意識高揚と授業等での実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修会等の職員への周知</li> <li>研修会への積極的な参加</li> <li>校内職員研修の実施</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>対面・オンライン共に案内頂く研修会はゆうnetで周知している。参加に結びつくケースは少ない・校内職員研修の充実を図る必要がある。</li> </ul>
		生徒の学校生活の保障	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な生徒への早期対応及び合理的配慮の提供</li> <li>情報共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒理解研修の実施</li> <li>教育相談の充実</li> <li>進路保障に向けた適切な指導</li> <li>健康教育部と学年及び学科との連携強化</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>1,2学期に開催した生徒理解研修で全職員と情報を共有した。</li> <li>授業内支援に活かし、HR活動における留意点として活用している。</li> </ul>
教育環境整備及び安全	環境教育の徹底	環境美化への意識付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>掃除の徹底</li> <li>教室ゴミの分別</li> <li>エコステーションでの分別点検</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>美化委員による清掃状況点検</li> <li>美化コンクールの実施</li> <li>通学路等の清掃活動(ボランティア委員会計画)</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>清掃用具の点検及び交換、エコステーションでの分別点検は定着した。</li> <li>他委員会との連携による通学路清掃活動は定着した。</li> </ul>
		電力消費量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>電気使用量を前年度比、0.1パーセント削減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員室南面のグリーンカーテン設置</li> <li>節電の呼びかけ</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>グリーンカーテンは設置できたが猛暑のため生育不良であった。</li> <li>電気使用量は前年と比べ増加した。健康面に影響がないように使用する。</li> </ul>

	図書館教育の充実	図書館の利用促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒1人あたりの年間貸出数10冊以上</li> <li>朝読書の徹底</li> <li>蔵書の整備と充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>広報活動や図書委員会活動の充実</li> <li>朝読書時間の確保</li> <li>生徒の興味・関心、学習等に対応した図書の選定</li> <li>蔵書新鮮度の向上と整備</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>広報紙を図書委員5回、司書9回発行した。年3回の小学校での読み聞かせや文化祭への参加等、委員会活動を充実させた。</li> <li>1月末時点での生徒1人あたりの貸出数は約7.5冊で、昨年度1年間の6.4冊から増加した。</li> <li>「図書館で朝読書」を実施した。</li> <li>1千冊超の新刊を受入れ、750冊除籍して蔵書新鮮度を向上させた。また分類見出しや作家別見出しを作成し環境を整備した。</li> </ul>
	安全管理の徹底	健康管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>インフルエンザや新型コロナウイルス感染拡大防止対策</li> <li>熱中症対策</li> <li>健康診断後の受診勧告</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校だより、放送等を活用した保健指導の実施</li> <li>熱中症予防に関する保健指導の実施及び警戒アラート発令時の迅速な周知</li> <li>勧告書発行・再発行時における保健指導の実施</li> </ul>	A	<p>学校だよりや校内放送等を用いて感染症や熱中症の予防を行った。今後はより生徒の実態や興味に応じたアプローチになるよう、生徒保健委員会の活動を活性化したい。</p>

#### 4 学校関係者評価

- 生徒保護者との信頼関係について、悩み相談に対する教員の真摯な対応が、前年度より保護者に高く評価されている点を好意的に受け止めていただいた。
- 学校の雰囲気と教育成果については、卒業生が「高校が楽しい」と挨拶に来る現状や、高度な技能（技能五輪など）で全国・世界レベルの実績を上げている指導力を評価いただいた。
- 評価指標の改善については、ホームページへの掲載（インプット）に留まらず、それによってどのような変化が起きたかという「アウトプット（成果）」を重視した評価への進化が求められた。
- 教員の負担については、「教員の超過勤務」がC評価である点に懸念が示され、組織的な改善が必要と指摘された。

#### 5 総合評価

- 基本理念である「対話（生徒・保護者・職員）」と「安心安全・命の尊さ」を基盤に据えた学校づくり引き続き推進していく必要がある。
- また、「現状維持は衰退である」との認識のもと、時代の変化に合わせた改善（生成AIの活用や組織体制の見直しなど）にチャレンジしやすい仕組みづくりが重要。「主体性・社会性」の項目で目標を達成し、生徒の意識が高まっている一方、自己効力感のさらなる醸成が課題として共有された。

#### 6 次年度への課題・改善方策

##### 【学校経営】

##### (1) 現状と課題

- これまで長年にわたって学校だけで様々なルールを設け運用してきた。
- しかし、「内規を含む校則や各種ルール、前例踏襲による慣例的な学校文化」と「地域のニーズや生徒たちの実態」との間に乖離が生じ始めている。

##### (2) 改善方策

- 乖離の具体を明確にするため、教育課題を社会課題と捉えなおした上で学校運営協議会等を活用し地域と課題を共有することから始める。
- 生成AIを活用した個別最適な学びの充実に向けて教職員に対する研修等を充実させる。

##### 【総務】

##### (1) 現状と課題

- 総会（4月末）及び学年別保護者会（10月）の出席率が低調
- P T A活動への協力者が固定

##### (2) 改善方策

- 「行って良かった」感を高める学校からの情報提供を充実させる

## 【生徒指導】

### (1) 現状と課題

- ・挨拶・整容指導や自転車の2重ロック徹底（ほぼ100%）に成果が出ており、重大な交通事故はなかった。生徒会やボランティア活動も活発。
- ・校内では概ね規範意識が見られるものの、校外での問題行動により「特別な指導」を受ける生徒が増加している。また、情報モラルのさらなる向上も求められている。
- ・いじめ防止については、全学年でのLHR実施やアピール文の掲示による啓発活動を推進。また、年3回のアンケートや匿名連絡サイトの活用、外部専門家を交えた対策委員会の開催など、早期発見・対応の体制が整っている。
- ・特別支援教育については、生徒理解研修を通じて全職員で情報共有を行い、授業やHRでの合理的配慮に活かしている。

### (2) 改善方法

- ・全職員による問題行動の未然防止に加え、家庭と連携した情報モラル指導や「語先後礼」の徹底を継続する。
- ・生徒会行事の計画的な運営や委員会活動の活性化を通じ、生徒の主体性と社会性の育成に努める。
- ・いじめ対策については、引き続き、相手を思いやる言葉遣いなどの「言語環境」を整えるなどの取組みを実施する。また、スクールカウンセラー（SC）と連携し、面談に消極的な生徒も含めた重層的なサポート体制の構築に努める。
- ・特別支援教育に関する校内研修を引き続き実施し、教職員の専門性と意識の向上を図る。

## 【進路指導】

### (1) 現状と課題

- ・卒業生講話への県外企業の招聘や、インターンシップ受け入れ先（77事業所）の確保、合同企業説明会の規模拡大（47社）など、外部連携が活性化している。
- ・進路希望調査の時期設定が定まり、進学希望者56名全員が合格するなど、丁寧な個別指導が成果を上げている。
- ・主な課題としては、進学スタイルの多様化に伴う書類確認作業の早期化や、増加する求人情報をいかに効率よく生徒へ繋げるかが課題となっている。
- ・生徒の進路希望を段階的に固めていくための、系統的なLHRやガイダンスの計画づくりが必要。また、就職試験における内定未獲得者への継続的な支援が求められている。

### (2) 改善方法

- ・多様化する入試に対応するため、受験申し込みの流れや書類確認の手順を年度初めに学年全体で共有し、早期にスタートを切る。
- ・生徒の進路目標を2年間で明確化できるよう、進路LHRやガイダンスを計画的に実施。
- ・増加する来校企業や求人情報を生徒へ効果的に提供する方法を検討し、学年・各科・進路部間の連携をさらに強化する。また、合同企業説明会については、参加企業数と生徒数のバランスを考慮し、次年度に向けた内容の検討・調整を行う。
- ・試験対策の継続と強化については、公務員試験対策（1次・2次）の強化や面接指導を継続し、就職・進学ともに内定率100%の維持を目指す。

## 【学習指導】

### (1) 現状と課題

- ・基礎力診断テストで成績が向上した生徒は44%に達し、目標（30%以上）を達成。数学科での習熟度別指導や学習会も実施済み。
- ・学習習慣の定着：家庭学習ができている生徒は73%で、目標（81%）に届いていない。
- ・テスト結果の自己分析を学力向上へ繋げる仕組み作りや、振り返りの質の向上が課題。

### (2) 改善方法

- ・主体的な学びの促進について、自己分析を促し、家庭学習が自身の成長にどう繋がるか、振り返りの質を高める指導に努める。
- ・指導体制の充実については、教員相互の授業参観による授業改善を進め、個々の状況に応じた学習支援の充実に取り組む。

## 【図書部】

### (1) 現状と課題

- ・新刊1,000冊以上の導入や見出しの整備、広報紙の発行により、1人あたりの貸出数は前年の6.4冊から7.5冊へ増加した。
- ・年間目標である「1人あたり10冊以上」には届いていない点が課題。

### (2) 改善方策

- ・「図書館で朝読書」の継続や、図書委員・司書による広報活動をさらに充実させる。
- ・生徒の興味・関心に沿った選書と蔵書の鮮度維持を徹底し、目標の10冊達成を目指す。